

第33回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部会議 議事概要

日時：2021年11月20日（土）午前9時から午前10時まで

場所：愛知県庁本庁舎 2階 講堂

1 挨拶

大村知事：

第33回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部会議にご参加いただき、感謝する。

感染の再拡大を防止するため、10月18日から県独自の警戒領域を発出し、感染防止対策に取り組んできたところ、感染状況は大変落ち着いてきている。1日の新規陽性者数が一番多い時で、8月末に2,339人の日があったが、9月に入り、1か月で100人前後となり、10月1日に二桁となり、11月には一桁となった。また、昨日は7人であった。

昨日までの数値で、新規陽性者数は7日間平均で1日当たり7.9人という状況である。病床使用率も1%を切っている。

一方で、新規陽性者は発生しており、感染症のリスクがなくなったわけではないため、今後も社会・経済活動とのバランスを取りながら感染拡大の防止に取り組んでいく必要がある。

昨日、国の基本的対処方針分科会が開かれ、その対処方針について変更・緩和がされた。これを受けて、愛知県も、11月22日から国の方針に合わせて、飲食店への対応や、行事・イベントの定員制限を緩和していきたいと考えている。

なお、ワクチンの2回目接種済みの方を対象とする、国のワクチン・検査パッケージについて、11月22日に名古屋市内の結婚式場で、定員100%で技術実証が行われる。また、今月末には日本ガイシホールで満員でのコンサートが行われるため、それらの技術実証を見ながら、徐々に緩和をしていきたい。

一方で、今後、第6波は必ず来ると想定しているため、引き続き、医療・検査体制は緩めずに対応していきたい。

ワクチン接種については、今月中には、県の大規模接種会場で2回目接種が終局となる。現段階で2回目接種率は77%を超えており、皆様のご支援とご協力に心から感謝申し上げたい。

12月からは3回目のブースター接種が始まるが、必要なワクチンも確保している。12月と1月は医療従事者の接種を進めて、2月以降に、2回目接種から8か月を空けた高齢者への接種を本格化させる。各市町村、医療機関の皆様には

引き続き、よろしく願います。

6か所の大規模接種会場については、引き続き3回目接種のために開設をしていく。また、職域接種は3月以降に始まるため、よろしく願います。

新型コロナウイルス感染症への感染防止対策と併せて、社会・経済活動の両方を取り組んでいくため、今後とも何卒よろしく願います。

2 議題（1）新型コロナウイルス感染症対策について

大村知事：

資料1は、県民・事業者へのメッセージであり、昨日付けで、発出をさせていただいたものである。11月22日から、警戒領域での新たな対策を願うため、引き続きよろしく願いたい。

資料2は、警戒領域での新たな感染防止対策の緩和の内容についてである。

資料3は、具体的な内容について記載されており、実施区域は愛知県全域で、期間は22日からである。県民の皆様へのお願いの変更点については、これまで外出は少人数で、混雑している場所と時間を避けての行動であったが、それも制限なしとする。また、県をまたぐ移動については、感染防止対策の徹底と検査を受けてほしいとしていたものを、基本的な感染防止対策の徹底に変更した。一番大きな変更は、飲食店は一つのテーブルは4人を目安で願っていたものを、感染防止対策を行えば、その制限はなしに緩和する。

その他のお願いについて、イベント・行事は、これまでは定員の50%であったが、感染防止安全計画を作る場合は、定員の100%に変える。なお、大声ありの定義について、音楽・演劇・舞踊などの例示をし、区分けしていたが、今後は、例示はやめて、観客が通常よりも大きな声量で反復・継続的に声を発することと定義をし、または必要な対策を十分に施さないイベントは大声ありと定義をさせていただく。感染防止安全計画については、国から雛形が来ており、今日付けで発出しているので、各イベント事業の主催者の方にご活用いただきたい。

参考資料1について、今の感染状況等の資料であり、指標と、1日あたりの新規陽性者数・入院患者数について記載されている。大変落ち着いてきており、今は、経済活動を回すことが必要であるため、しっかりと取り組んでいきたい。

（有識者・関係団体、政令市・中核市意見）

医療専門部会 長谷川部会長：

現在、感染状況は非常に良い状況である。

新規感染者の増加の指標は、実効再生産数と、グロースレートという、単純に

新規感染者数をパーセンテージで日々比較していくものであるが、9月1日からずっと愛知県はマイナスである。しかし、今週に入り少しプラスに動いている日があるが、これは新規感染者数が底値となってきたということであり、この状態から、今後はどうなるかを注視していく必要がある。

したがって、緩和することは社会を動かすために必要であるが、基本的な感染対策に基づくものであるとお考えいただいただく必要がある。マスク、手洗い等が疎かになるため、しっかりと基本的な感染対策をとった上で、社会活動を行っていただきたい。

ワクチン接種について、厚生労働省のアドバイザリーボードに出された最近のデータを見ると、感染者のうちワクチン接種をされた方、いわゆるブレークスルー感染の方の割合は、11月初めの段階で、全年齢で見ると30%となる。特に、65歳以上で見ると、6割を超えている。つまり、65歳以上の感染者のうち、6割がワクチン接種をされた方という状況である。

3回目接種については、国からも様々な情報が流れており、接種間隔は8か月ということであるが、もしも病院の体制を整えば、6か月過ぎた段階で接種できるような体制になることを希望する。

また、最近の愛知県の新規感染者で一番多い年齢が、10歳未満の方であるというデータが出ている。小児に対するワクチン接種の問題は、いろいろな議論が国の中であるが、小児専門の先生方にお集まりいただき、きちんと議論して愛知県の今後の方向性を示すことが必要である。

病床確保について、国から求められているため、各医療施設には既にご努力いただいているが、さらに一層のご協力をいただきたい。

大村知事：

ワクチン接種について、厚生労働省から、一時、接種間隔は6か月という話もあったが、8か月空ける前提でワクチンの供給をすることとなったため、その計画で進めざるを得ないと考えている。小児のワクチン接種については、国が5歳から12歳のワクチン接種の時期や量等について具体的な計画を進めているとのことであるため、その状況を見ながら、県内の専門家の方の意見を聞きたい。

愛知県医師会 柵木会長：

感染者が少ない状況である時に、第6波の準備を進めるという政府や県の方針は賛同できる。政府は、感染力が2倍になっても医療体制を維持できるようにと言っている。2倍という数字の根拠ははっきりしないが、最悪の事態に備えることがこの数字に表れていると思う。

新型コロナウイルス対策の柱は、検査と隔離、病床確保と治療薬、ワクチン接

種である。検査については、当初は能力不足と言われていたが、今は簡易抗原検査を除いても、公式検査数は1日当たり21,000件以上で、3万件は大丈夫であると聞いており、検査能力は、相当な感染拡大が起きても十分対応できると思う。

治療薬については、今年中には飲み薬が20万回分確保される。来年を含めれば160万回分確保されるため、抗体カクテルと合わせて、これが本当に実行できれば満足できる数字だと思う。

ワクチン接種については、接種率が77%を超えている中、来月から3回目接種が始まる。2回目接種をした人全員が3回目を希望するかどうかは疑問であり、流行の度合いが小さければ、希望者は少ないと思う。しかし、1回目、2回目の接種人口を考え、8か月後に接種を行うとなると、2月と3月は接種者が増えるため、ワクチンの供給を滞らせないようにお願いしたい。

小児へのワクチン接種については、まだ詳細が決まっていないが、大人とは違うため、医師会としても、体制を立てていきたい。

一番問題である病床の確保について、現在の確保病床が1,735床であるが、政府が求める病床数は2,534床である。第5波のピーク時に実際に使用した病床数は1,055床で、その倍以上である。現在、県から各病院に意向を聞いており、各病院が手を上げ、政府の求める数字に近付いていると聞いている。問題としては、現実感染拡大した際、この政府が求める数まで確保するため、通常医療体制の制限と、新型コロナウイルスへの医療体制への配分についての対応であり、今のうちに、病院間の役割分担等の課題の整理をして、準備を進める必要がある。

病床確保の一番の課題は、人材の確保である。確保病床に人手を充てるため、感染の拡大期には、一般病床の看護基準を少し緩めることを国にお願いし、それによって確保できる看護師を、確保病床に充てていく。また、看護業務について、看護師や医師にしか出来ないことは仕方ないが、体位の変換、シーツの交換、配食など、資格に関係なくできる業務は、看護助手や他業種の協力を仰いで、様々な職種の方が対応できるよう、今のうちに研修を行う必要がある。

大村知事：

2,500床を超える病床確保は容易ではないため、本当に必要になるということであれば、通常医療は相当制限されると考えられる。

今年の8月末に、延期できる治療や手術は延期してほしいという通知や、9月には病棟をまとめて確保病床に転換してほしいとお願いをして、病床を確保していただいたことがあったが、更にお願いをすることになると思う。しかし、その際は救急医療を完全にやめることはなく、一部は空ける必要があるため、医療圏毎に整理をしていく。また医師会の皆様にご相談をさせていただきたい。

愛知県病院協会 細井副会長：

医療従事者の共通認識は、第6波を避けたいということである。

フェーズごとの病床確保のため、県からアンケートが来ている。前回までの1,735床の病床確保については、災害拠点病院などの要請があったため、この数字になっていると思う。今回は1,800床を目指しており、恐らく公的病院等への要請も行っていると思うが、アンケート調査の結果、もしも病床数が足りなければ、病院協会としては会員病院に依頼を行う。

また、感染拡大している時期は、各病院で看護師が不足しているため、愛知県看護協会等と話をし、潜在看護師の活用もお願いしたい。

大村知事：

看護師の確保について、よく相談しながら進めていく。

名古屋商工会議所 内田専務理事：

医療体制の維持に尽力をいただいている、医療従事者、行政機関に感謝を申し上げる。

最近の経済状況について、これまで製造業と非製造業では、景況感に大きな差があり、特に、飲食業や宿泊・観光業などの回復が遅れている。しかし、感染状況が落ち着き、徐々に経済活動が戻りつつある状況である。飲食店の中には予約が入り始めた店舗もあり、宿泊施設についても、県で実施しているあいち旅eマネーキャンペーンにより、休日予約が埋まっている施設もあると聞いている。しかし、飲食店については、席の間隔を空けての営業や、客足が戻ってきていないことや、宿泊施設については他地域からの観光客に限りがあるなど、人流で成り立つ、飲食、宿泊、交通、イベント、観光等の業種については、従来の上に戻るのはまだ先という見方が多い。

今回の制限緩和は、経済正常化への後押しの意味で大変ありがたい。しかし、過剰債務を抱えている企業も多く、経済正常化が進む中、資金調達が出来なければ経営再建が難しくなるため、事業者への継続的な資金支援も必要である。

第6波が来たとしても、波が最小限になるよう、県民と事業者が協力をし、感染対策に注意を払うことが必要であるため、呼びかけを引き続きお願いしたい。

また、3回目のワクチン接種についても、円滑に進むようよろしくお願いします。

大村知事：

ワクチン接種の職域接種が増えているため、よろしくお願いします。

中部経済連合会 小川専務理事：

この感染が非常に落ち着いた状況を保っていただいている、医療・保健関係や県の方々に改めて御礼を申し上げるとともに、県民の皆様の協力と努力の結果でもあると感じている。

今回の緩和について、経済活性化の観点からも大いに歓迎をしている。ポイントとなるのは、緩和が長く継続でき、第6波の波を小さく留めるため、感染対策を徹底することが重要である。

感染対策と社会経済活動のバランスをいかに継続していくかが重要であるため、経済界としても、皆様方とともにしっかりとした感染対策に努めていきたい。

大村知事：

引き続き、感染対策と経済活動の両立を図るため、よろしく願います。

愛知県経営者協会 岩原専務理事：

状況が好転したことに対し、感謝を申し上げたい。

先月の18日から、県独自の警戒領域により感染対策が行われ、一部の行動は緩和されたものの、感染対策を緩めることなく、しっかりと対応していたと思うが、経済回復に向けて、行動の活発化が必要である。

今後、新しい行動様式が定着するため、社会全体でデジタル化が重要である。11月5日に、あいち産業DX推進コンソーシアムが立ち上げられ、産業界の期待は大変大きい。社会がデジタル化を進めていくことは、効率化や生産性の向上に加えて、非接触により感染対策にも大変意義があるため、引き続き、県による産業界の牽引をよろしく願いたい。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

日本労働組合総連合会愛知県連合会 可知会長：

長期に渡り、新型コロナウイルス感染症への対応をしていただいている医療従事者、県職員の皆様に感謝を申し上げます。少し落ち着いたように見えるが、年末年始の人流も含めてまだ安心できる状況ではないと捉えている。連合愛知としても、引き続き基本的な感染防止対策の徹底について、構成組織の方に周知していきたい。

飲食業界では、少しずつ客足が戻って来たとの声が届いており、今回の人数制限の緩和について、賛同できるが、より安心して飲食が出来るよう、今後、繁華街等で、無症状者に対して実施するPCR検査等についても拡充をしていただ

きたい。

ワクチン接種について、3回目接種の検討が進められているが、職域接種を維持する場合には、前回の経験を踏まえ、より迅速な対応を図りたいと考えており、可能な限り、事前の情報提供をいただきたい。

連合愛知への労働相談は現在も続いており、内容としては、休業補償、差別、雇止、労働条件の不利変更等であり、引き続き、雇用への影響や、職場での基本的な感染対策の実施、差別的取扱いについて注視していくべきである。

大村知事：

今後とも連携して対応していきたい。よろしく願います。

愛知県市長会 相津事務局長：

感染状況が落ち着いている中で、これまでの対策を検証し、今後を展望する趣旨で、国においても、取組がまとめられたと聞いている。

各現場で尽力をされてきた関係の皆様方としては、まだ気を緩めず、これまでの反省を踏まえて、現場で混乱を起こしたくないという気持ちもあると思うが、可能な限り現場の混乱を和らげることが出来るよう、国や県においては、引き続き支援をお願いしたい。

全国市長会等においても、3回目のワクチン接種に関して、正確かつ早めの情報提供の徹底を求める声が多く上がっている。県からの要請活動も既に行っているが、引き続き、現場の実情を踏まえた要請をお願いしたい。

大村知事：

ワクチンの3回目接種について、接種間隔の情報が錯綜した状況であった。私からも、国にはしっかりと対応を強く求める。

引き続きよろしく願います。

愛知県町村会 宇佐見事務局長：

感染者の状況が非常に落ち着いてきている中で、これから年末に向けて、Go To Eatキャンペーンや、Go To トラベル等の各種経済対策が進んでいくと思うが、このような特需がなくなった後、元の状態に戻ってはいけないため、全業種・全業態において、感染状況に関わらず、経済が回せる工夫や体制作りを、この機会にしっかりと行うべきである。是非ともご助言いただきたい。

ワクチン接種について、3回目接種が本格化していく中で、報道等からは、3回目接種はファイザーとモデルナの希望した方を接種できると聞いている。希望といっても、メリットやデメリット等の情報がない中では迷ってしまうため、

情報提供も必要である。

ワクチンの2回目接種について、接種率が77%とのことであるが、残りの23%の方の中には、どうしても接種できない方や接種したくない方がいると思うが、理解をしてもらいながら、接種率を上げていくことが引き続き大事なことである。副作用や副反応も踏まえつつ、しっかりと効果について、宣伝をしていくことが大事である。

将来的に、ワクチンを毎年接種するようになるかもしれない、長期的な展望で、ワクチン接種体制を恒常的なものとするのが重要になるかもしれない。国の判断もあるかと思うが、様々な意見をいただきながら、取り組んでいく。

大村知事：

またワクチン接種体制の情報共有をしていく。よろしく願います。

名古屋市保健所 医監：

感染状況について、先週の1週間で新規陽性者数が16人で、今週は昨日までで7人である。感染者数は非常に落ち着いているが、経路不明者が増えていることが心配である。感染者のうち4分の3は経路不明者で、発生の地域性はなく散在的に発生しており、市内では無症状でウイルスを持っている方がバックグラウンドで感染を広げていることが想定されるため、引き続き感染対策を続ける必要がある。

入院状況については、入院者が4人、宿泊療養者が4人、自宅療養者が2人であり、非常に落ち着いている。

ワクチン接種については、追加接種に対してしっかりと準備していきたい。

また、第6波に向けて、名古屋市内の病院の先生方と第5波の振り返りをウェブ会議で行い、準備を進めている。

大村知事：

名古屋市の新規陽性者数は昨日も0人で、何日か続いている。しかし、リバウンドして第6波が来る場合は、まずは名古屋であるため、よく状況を注視していただきたい。

ワクチン接種について、ファイザーとモデルナの3月までの供給計画が国から来たため、必要な方に確保して届ける。ワクチンの種類について、基本的には市町村の個別接種はファイザーで、県の大規模接種と、職域接種はモデルナを使用しており、1回目と2回目は同じ種類の接種をお願いしている。もし同じ会場でファイザーとモデルナの両方を使用すると、間違いなくミスが起きるため、そうならないように注意していただきたい。名古屋市の大規模接種会場では、モデ

ルナを使用しているのので、個別接種と大規模接種会場を分けて行ってほしい。またその点もご相談させていただく。

豊橋市保健所 主幹：

感染状況については、名古屋市の傾向と同じような状況である。

感染対策については、気温が下がり、換気をしなくなる傾向があるため、体調に変化を及ぼす程の換気はいけませんが、感染対策のための啓発を考えている。

医療提供体制については、病床確保は必要であるが、治療薬等の市場流通が始まり、入院を要さない治療が進むことも考えられるため、そのような体制整備も進めていく。

3回目のワクチン接種について、接種体制整備を進めていくため、また協力をよろしく願います。

大村知事：

寒くなってきたが、換気の協力はしていただきたい。最近、北海道がリバウンドしているのは、間違いなく気候が影響している。

引き続き感染防止対策の徹底をお願いします。

岡崎市保健所長：

新規陽性者数については、大幅に減少した。10月27日以降、新規陽性者数が、0人の日が23日間続いたが、11月19日に、久しぶりに1人の新型コロナウイルスの感染者が発生した。市民の入院患者数は0人で、宿泊療養者数が1人という状況である。

ワクチンの接種率については、1回目接種は対象者のうちの84%で、2回目接種は83%である。

第6波に向けた取組については、9月から病床転用を受け入れた市内の医療機関に対しての協力金の交付や、自宅療養者等の搬送体制に民間事業者への業務委託を行っている。また、自宅療養者への医療提供体制をサポートするため、酸素濃縮装置の貸出しの準備も進めている。

11月に入り、市内の約2,000社を対象としたPCR検査を行うことや、内服薬の医療機関での治験について、対象者への案内を始めている。また、感染拡大に備えて、応援職員に対する業務研修も行っている。3回目のワクチン接種の体制準備を進めており、併せて対応を強化していきたい。

大村知事：

今後ともよろしく願います。

一宮市保健所長：

当市は4月に中核市になってから、累計の新規陽性者数は3,511人である。10月から新規陽性者数が激減し、10月14日の週が4人、21日の週が1人、28日の週が4人、11月4日の週が1人、11月11日から本日まで0人が続いている。

また、濃厚接触者が検査のため保健所に来る人数も減っており、10月21日の週は6人が検査をして陽性者は0人、28日の週は3人が検査をして陽性者は0人、11月4日の週は2人が検査をして陽性者は0人、11日の週は3人が検査をして陽性者は0人であった。

また、11月11日時点での市内の入院は2名で、宿泊療養施設の入所者数は0人である。

ワクチン接種について、普及している数にもよると思うが、8月1日から現在までの60歳以上の陽性者のうちで、ワクチンを2回目接種は行ったものの、感染をした方が、約半分を占めている。

大村知事：

今後ともよろしく願います。

豊田市保健所長：

感染状況については、新規陽性者が昨日時点では1週間当たり4人で、人口10万人あたり0.9人で、大変落ち着いた状況である。しかし、陽性者のうち、感染経路等がはっきりしない方や、少人数ながらブレイクスルー感染する方がおり、少し心配している。

ワクチン接種率については、18日時点で、12歳以上人口を母数とすると、1回目接種が85.6%、2回目接種が84.4%である。市が行う大規模集団接種は終了しているが、市内の医療機関での個別接種により接種率が少しずつ伸びている状況である。3回目接種に向けての準備も進めており、22日には医療従事者に接種券を発送する予定である。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

この本部会議でご意見をいただき、今の感染状況を踏まえ、警戒領域での新たな感染防止対策により、飲食店等、イベント・行事等へ22日から対応をする。

なお、これから年末年始を迎える。昨年は、基本的に三が日は初詣を遠慮していただくため、熱田神宮、愛知県神社庁と相談をし、また、仏教界の方にもご協力をいただき、分散の参拝をお願いしたが、今年はこれだけ落ち着いていれば、

初詣は問題ないかと考えている。ただ、熱田神宮において、テント内での食事等はよくないと思うため、ご相談をさせていただきたい。

年が明けると様々なイベント・行事がある。愛知県でのお祭りについて、特に3月には知多半島で春の山車祭りがあり、また事前によく相談をする。一番頭を悩ませているのは、2月13日にある国府宮のはだか祭りであり、国府宮神社の宮司や稲沢市等の関係者は、全員が決行すると言っているが、医師会、医療協会、医療関係の皆様によく相談して意見を聞くよう伝えている。

また、12月1日から、医療従事者のワクチン3回目のブースター接種も始まるため、円滑に進めていけるようにしっかりとやっていきたい。

県民の皆様命と健康を守ることを最優先に、併せて、社会経済活動との両立を図りながら、関係者と連携して、オール愛知でこの感染対策に取り組む。

引き続きよろしくお願ひ申し上げます。